



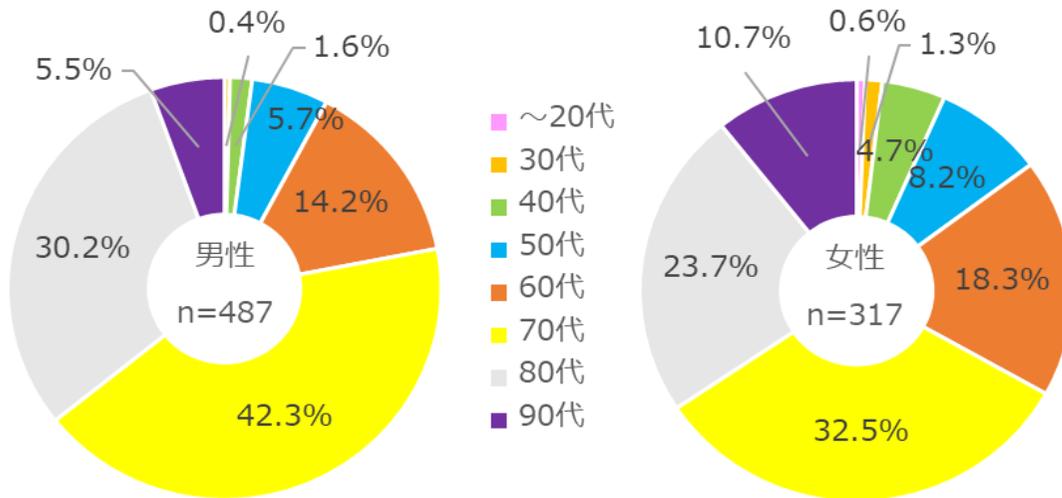
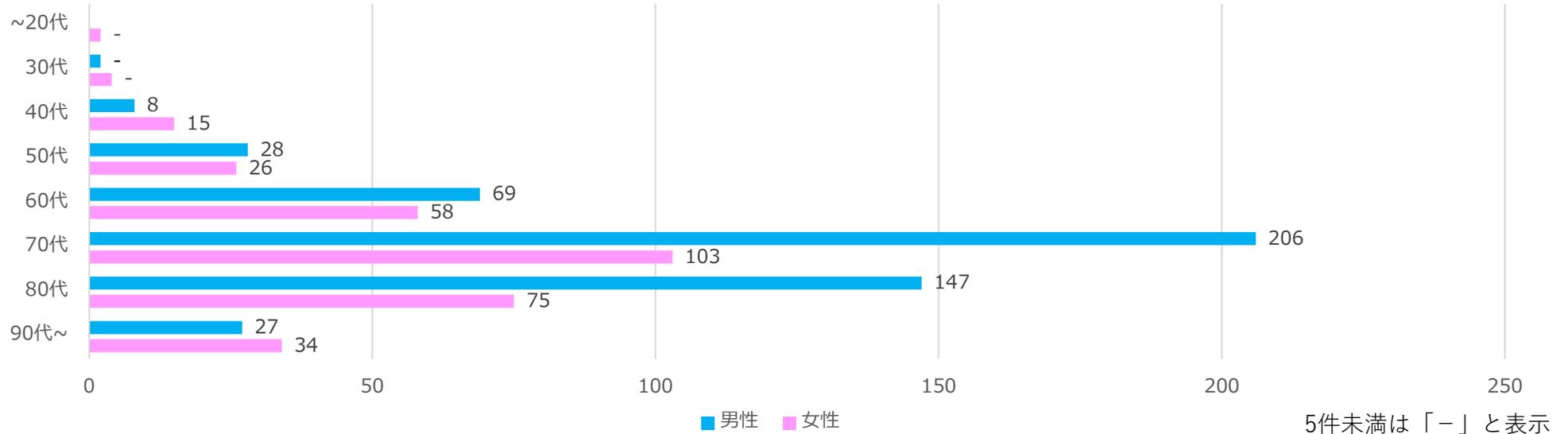
2019年症例～2023年症例 院内がん登録データ使用。(1月1日～12月31日) 国立がん研究センターにて公表されている院内がん登録ルールに基づき登録されたデータを集計しています。

### 部位別登録件数

5件未満は「-」と表示

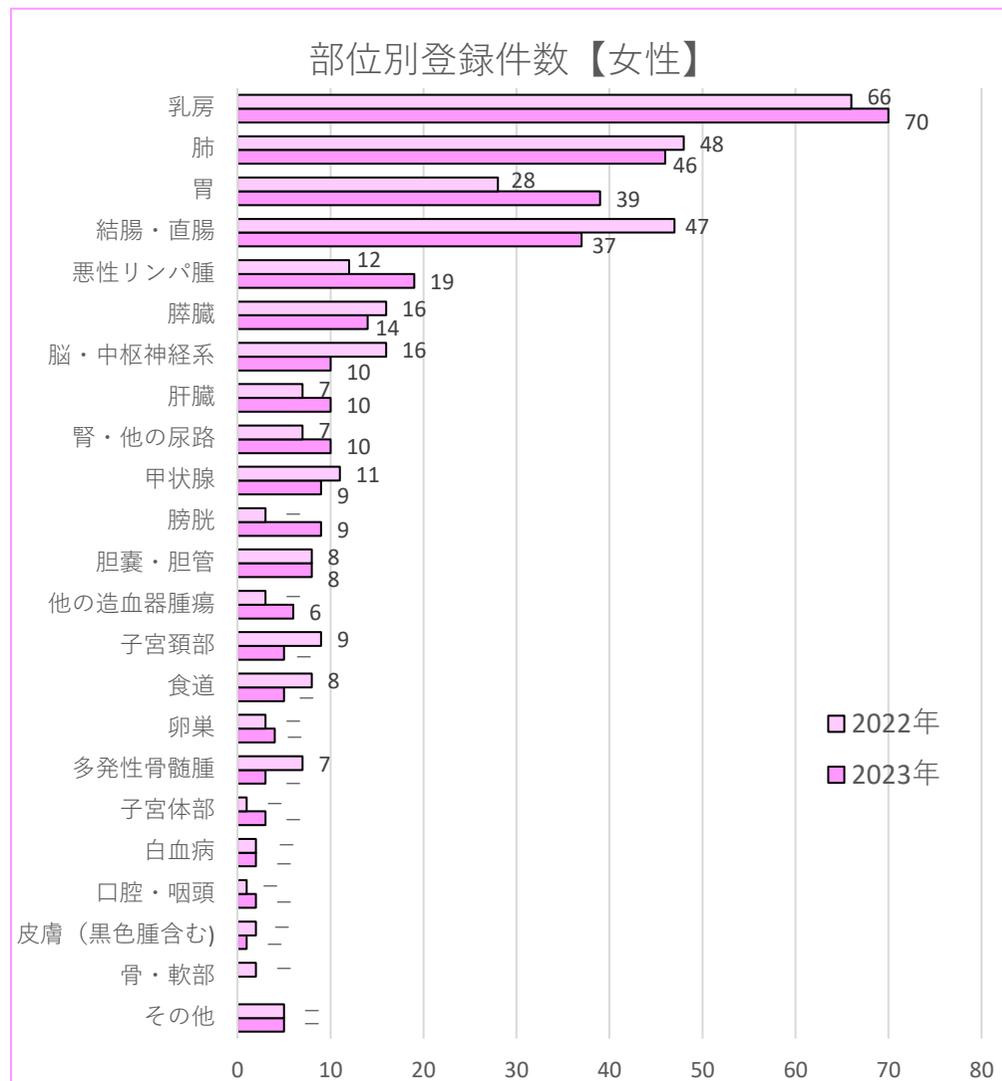
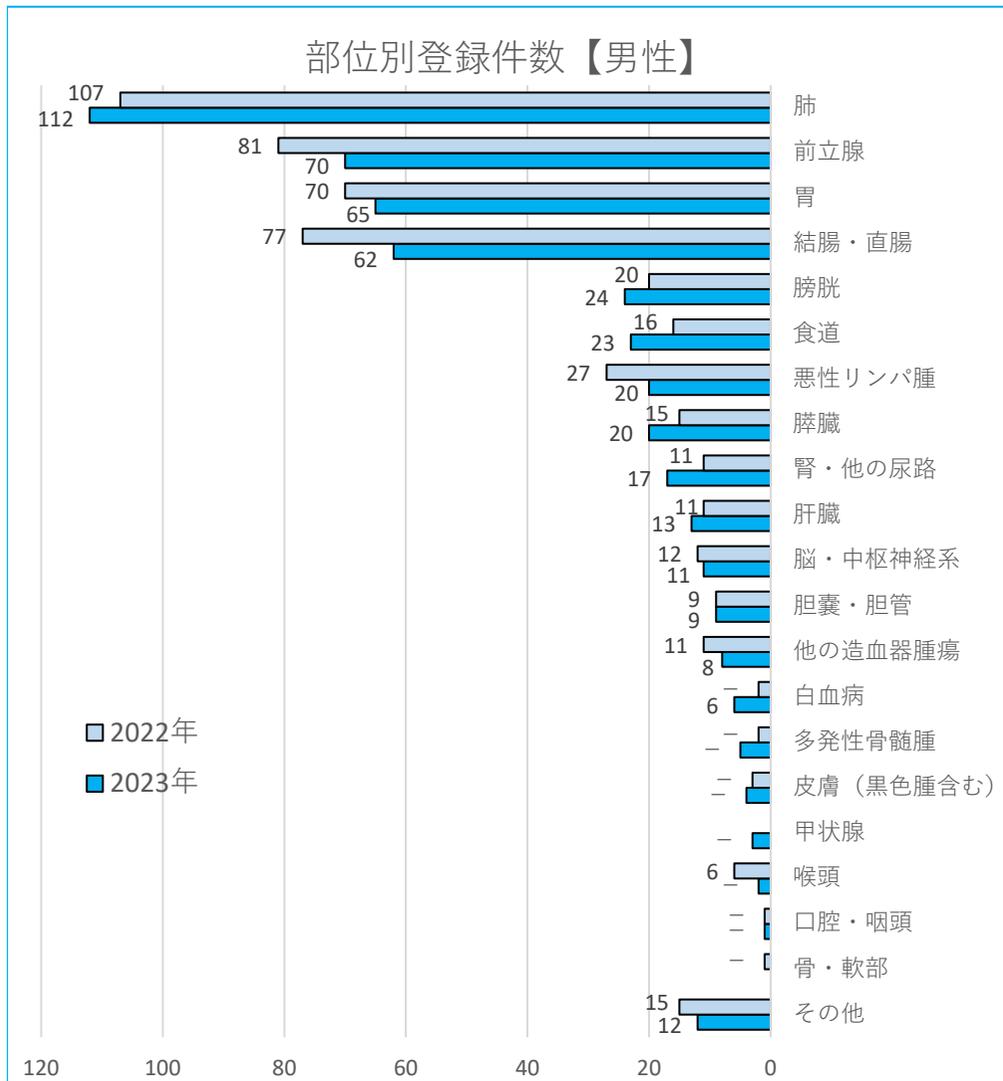
部位名	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
口腔・咽頭	9	12	8	-	-
食道	19	12	16	24	28
胃	92	89	102	98	104
結腸	74	70	76	99	73
直腸	31	25	41	25	26
大腸(再掲)	105	95	117	124	99
肝臓	27	29	20	18	23
胆嚢・胆管	11	14	20	17	17
膵臓	23	25	31	31	34
喉頭	6	7	-	6	-
肺	151	165	173	155	158
骨・軟部	-	-	-	-	-
皮膚(黒色腫含む)	8	7	7	-	-
乳房	67	66	64	66	70
子宮頸部	42	35	18	9	-
子宮体部	14	16	-	-	-
卵巣	-	8	-	-	-
前立腺	61	32	62	81	70
膀胱	32	-	16	23	33
腎・他の尿路	23	11	11	18	27
脳・中枢神経系	15	26	28	28	21
甲状腺	24	19	16	11	12
悪性リンパ腫	45	29	44	39	39
多発性骨髄腫	10	6	7	9	8
白血病	9	-	8	-	8
他の造血器腫瘍	20	11	12	14	14
その他	23	17	22	20	17
合計	842	741	813	809	804

## 2023年症例 年代別登録件数



高齢者の登録件数が男女ともに高い割合を占めており、  
 ■ 70代から登録件数が急増しています。女性は ■ 40代~  
 ■ 60代の登録が全体の約33%あり、男性と比較して若い世  
 代の登録が多いのがわかります。

5件未満は「-」と表示

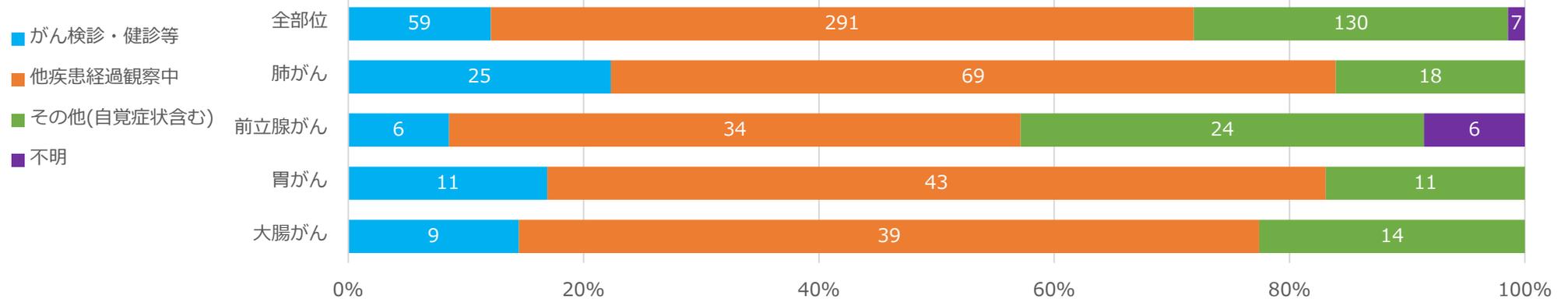


部位別で見ると、男性は「肺」「前立腺」「胃」の登録が上位を占めています。2022年症例との比較では、「膀胱」「腎・他の尿路」などの泌尿器科領域や「食道」「膵臓」の登録件数が増加しています。

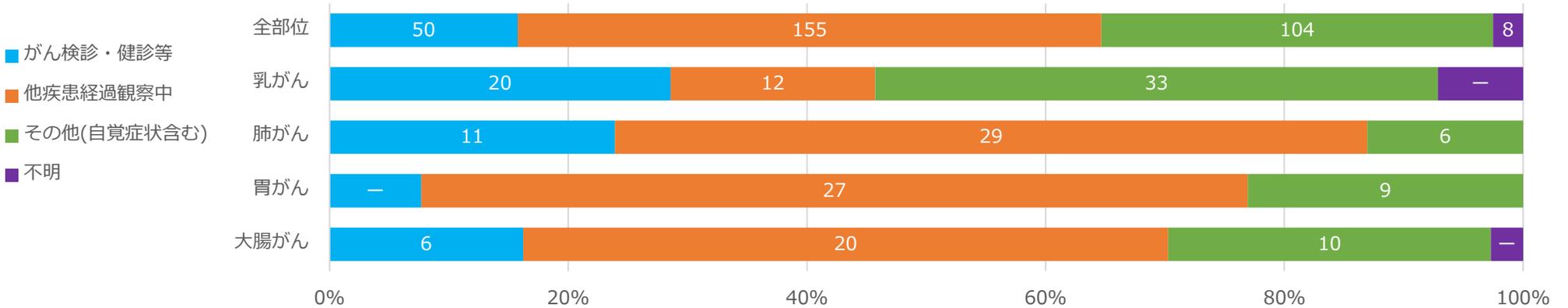
部位別で見ると女性は「乳房」「肺」「胃」の登録が上位を占めています。2022年症例との比較では、「膀胱」「腎・他の尿路」などの泌尿器科領域や「胃」「悪性リンパ腫」の登録件数が増加しています。

### 部位別発見経路【男性】

5件未満は「-」と表示

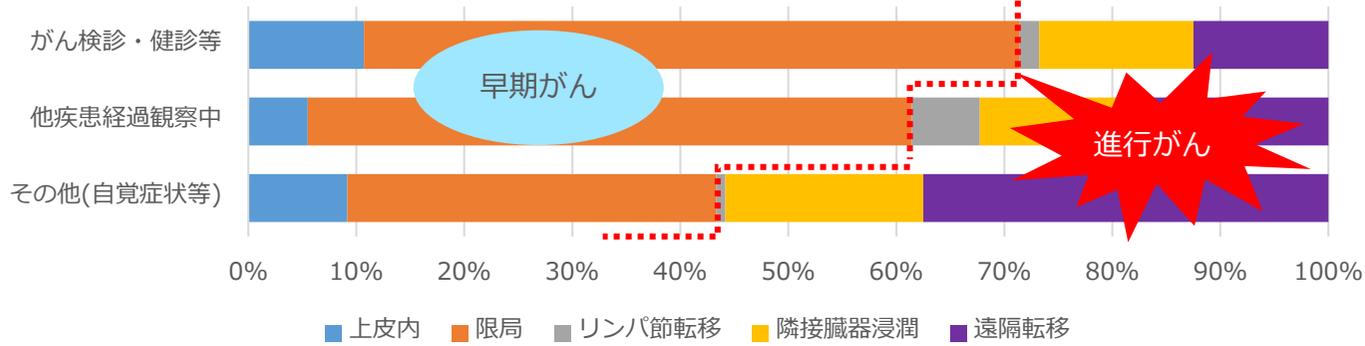


### 部位別発見経路【女性】



男女ともに他疾患経過観察中の偶発発見の割合が多く占めています。「大腸がん」「前立腺がん」では血便や排尿障害など自覚症状による発見も多く見られます。「乳がん」では、がん検診による発見やしこりなど自覚症状による発見が多く見られます。

### 発見経路別 治療前進展度比較【男性】



治療前進展度とは、初回治療前の「がんの拡がり」を記録するための項目です。

**上皮内**：組織の基底膜下にがん細胞が入り込んでいない状態

**限局**：がんが発生元の器官に限定して存在する状態

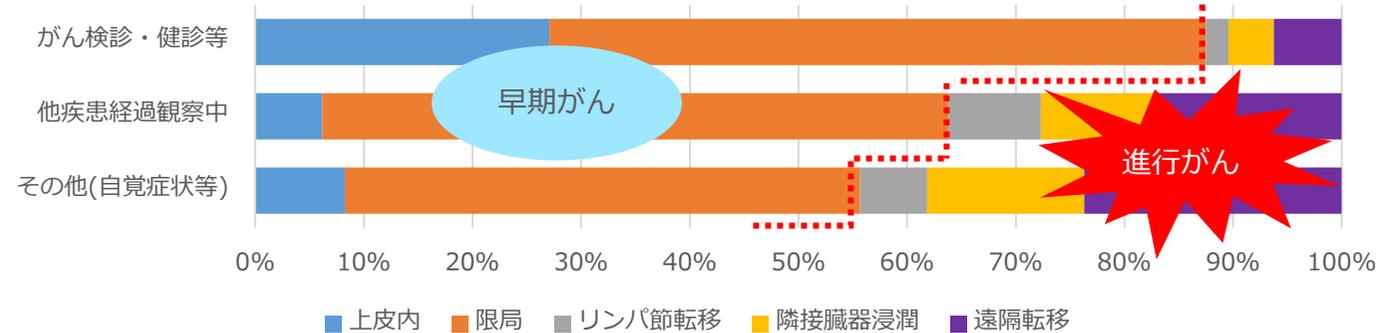
**リンパ節転移**：がん発生元の器官と直結したリンパ節への転移が認められる状態

**隣接臓器浸潤**：がんが発生元の器官と隣接する器官の境界を越えて進展した状態

**遠隔転移**：がん細胞が発生元器官から離れて身体他の部位に移動して新たな病巣で増殖を始めている状態

※発見経路「不明」及び進展度「不明」「該当せず」は省いています。

### 発見経路別 治療前進展度比較【女性】

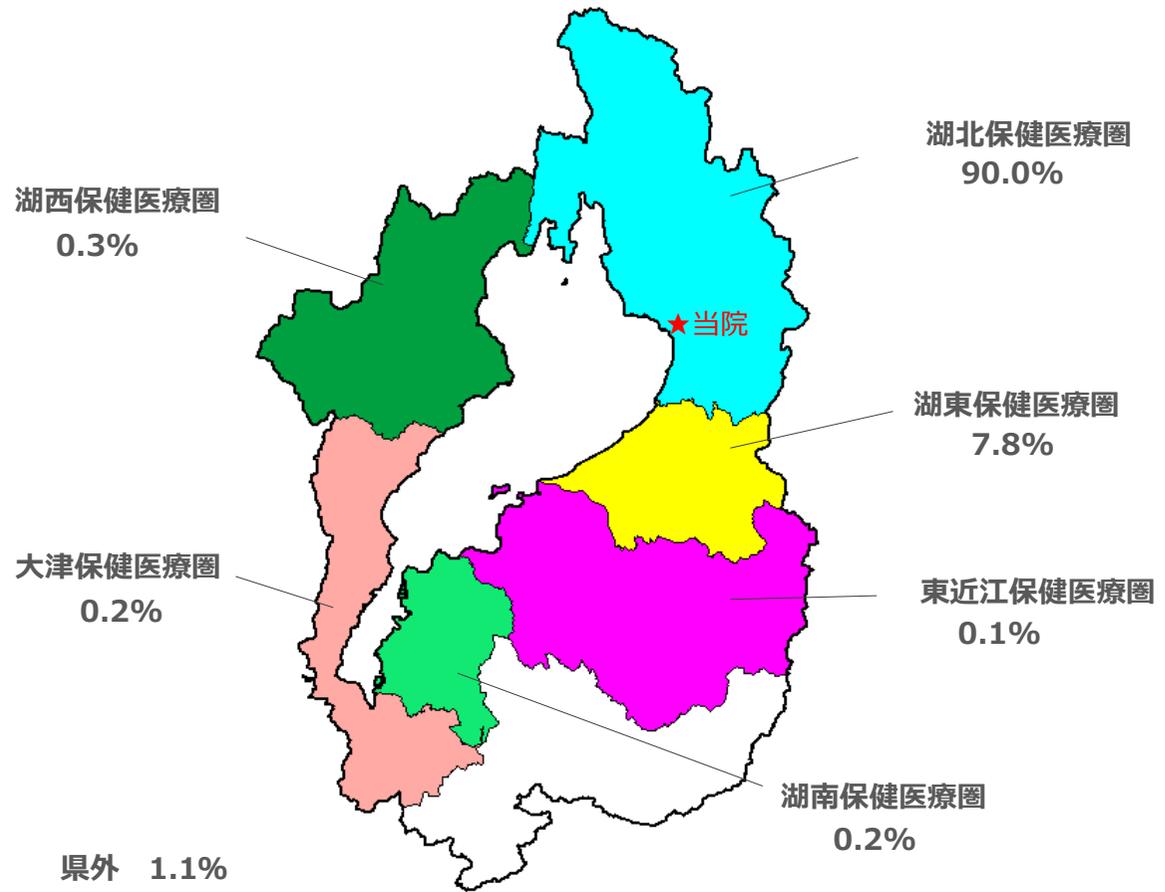


がん検診・健診等で「がん」が発見された方の中で、男性は約7割、女性は約9割の方が早期の段階で発見されています。一方で、他疾患経過観察中や自覚症状がきっかけで発見された「がん」については進行がんの割合が高くなっています。

がん検診のメリットは「がん」を自覚症状のない早期の段階で発見できることです。「がん」を早期発見できれば、入院日数が短くてすみ、からだへの負担や医療費の負担も少なくてすみます。

## 2023年症例 保健医療圏別診療状況

保健医療圏域	登録件数
湖北	724
湖東	63
湖西	3
湖南	2
大津	2
東近江	1
県外	9



n=804

全体の90%が湖北地域（長浜市・米原市）に居住されている方の受診です。当院は地域完結型の医療を推進しています。  
また、近隣の保健医療圏からも受診されており、良質な医療が提供できるよう、地域の医療機関と途切れのない連携をはかっています。